

フェマール錠について

□ フェマール錠 (Femara tablets)

商品名：フェマール錠 2.5

成分名：レトロゾール (Letrozole)



□ フェマールの内服開始にあたって

フェマールはホルモン剤で、長期間内服することの多い薬剤です。

医師・薬剤師の指示に従い、決してご自分の判断で中止しないようにしましょう。

今後服用を継続していく上で、この薬で出やすい副作用を理解しておくことは非常に大切です。

薬のことをよく理解し、上手に付き合ってください。

何か異常を感じた際は我慢せず、必ず医師・薬剤師にご相談ください。

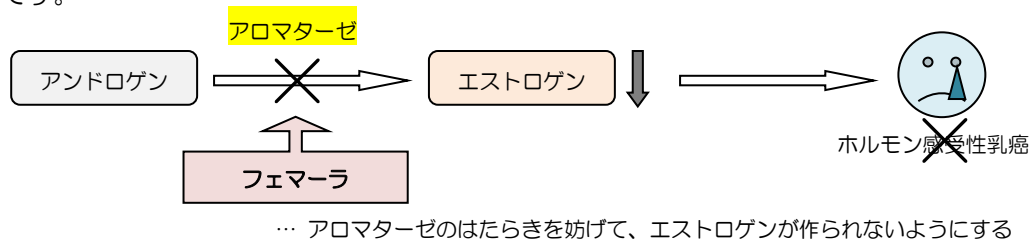
□ がん細胞に対するフェマールのはたらき

乳がんの中には、女性ホルモン（エストロゲン）の働きにより増殖する『ホルモン感受性乳がん』があります。

ホルモン感受性乳がんは、エストロゲンを“エサ”にして増えるため、エサのエストロゲンを減らすことはがんの増殖を抑えることにつながります。

エストロゲンは閉経前の女性においては主に卵巣でつくられますが、閉経後の女性では卵巣機能が低下しているためつくられなくなります。そのかわりに、卵巣ではなく副腎でつくられる男性ホルモン（アンドロゲン）に脂肪組織などにある「アロマターゼ」という酵素が働くことでエストロゲンが作られています。

フェマールはそのアロマターゼのはたらきを妨げ、体内でエストロゲンが作られないようにすることでがん細胞の増殖を防ぐ薬です。



□ 服用上の注意

- ・毎日大体同じ時刻に内服してください（医師の指示通り）。
- ・飲み忘れた場合はその分はとばし、次回1回分を内服してください。決して2回分を一度に飲まないでください。

□ 副作用

副作用がでやすい薬ではありませんが、気になる症状があればご相談下さい。

ホットフラッシュ（ほてり・のぼせ）といった症状が出ることがありますが、自然と軽減することが多いです。肝機能検査値異常、関節痛などの報告がありますが、いずれの副作用も出にくいものです。

□ 保管上の注意

- ・直射日光を避け、室温で保管してください。
- ・妊婦が誤って飲むと胎児に奇形が生じる恐れがあります。他の人が誤って飲むことがないように、注意してください。

この説明書は、『患者さんのための乳癌診療ガイドライン』を参考に作成してあります。

ご不明な点につきましては御気軽にお尋ねください。わたしたちがサポートします。

静岡市立清水病院 薬剤部 電話番号 054 - 336 - 1111 (代表)